

令和元年度第1回富津市創生会議 会議録（要旨）

|               |  |
|---------------|--|
| 1 会議の名称       | 令和元年度第1回富津市創生会議  |
| 2 開催日時        | 令和元年11月7日（木）<br>午後1時30分～午後4時30分  |
| 3 開催場所        | 富津市役所5階 502・503 会議室  |
| 4 審議等事項       | 1 次期総合戦略（素案）について<br>2 総合戦略実行計画の平成30年度事業実績について  |
| 5 出席者名        | 富津市創生会議委員（10名）<br>青木 一美、小泉 晴信、佐藤 公宏、島野 勝弘、<br>鈴木 敏夫、鈴木 裕士、鈴木 文江、武次 治幸、<br>森田 泰彰、山口 拓也<br><br>事務局（10名）<br>市長 高橋 恭市、副市長 小泉 義行、<br>総務部長 白石 久雄、総務部参与 前田 雅章、<br>総務部次長 秋嶋 隼人、企画課長 坂本 秀則、<br>企画課企画係長 田内 友臣、企画課主任主事 山田 誠、<br>企画課主任主事 鶴岡 隆樹、企画課主事 田澤 佳美<br><br>事業担当課（36名） |
| 6 公開又は非公開の別   | 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開  |
| 7 非公開の理由      | 富津市情報公開条例第23条第 号に該当<br>（理由）  |
| 8 傍聴人数        | 0人（定員 20人）   |
| 9 所管課         | 総務部企画課企画係<br>電話 0439-80-1223   |
| 10 会議録（発言の内容） | 別紙のとおり   |

上記会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

富津市創生会議 会議録署名人

会議録署名人

令和元年度第1回富津市創生会議 会議録（要旨）

| 発言者  | 発言内容  |
|------|---|
|      | <p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 会長あいさつ</p>   |
| 武次会長 | <p>会議録の確定について<br/>会長の指名した委員による承認を採用<br/>会議録署名人は、森田泰彰委員及び山口拓也委員</p> <p>議題（1）に入る前に、会議の趣旨及び議事進行について、事務局から説明を求める。</p>   |
| 事務局  | <p>本日の会議の趣旨は、議題（1）次期総合戦略（素案）について、委員の皆様方からご意見等をいただき、今後作成する次期総合戦略（案）に反映させることと、議題（2）総合戦略実行計画の平成30年度事業実績について、委員の皆様方からご意見等をいただき、主として令和2年度予算など、今後の事業実施に当たり、改善方策として取りまとめるものである。議事進行は、議題（1）については基本目標ごとに全体で議論を、議題（2）については基本目標1から4までを全体で一括して議論をお願いする。委員の皆様方からのご質問等については、同席している事業担当課が対応し、また意見交換等のやり取りをさせていただく。</p> |
| 武次会長 | <p>事務局の説明に対し、質問はあるか。</p>  |
| 委員   | <p>特になし。</p>  |
|      | <p>4 議題<br/>（1）次期総合戦略（素案）について</p>   |
| 武次会長 | <p>それではまず、議題（1）次期総合戦略（素案）について、事務局の説明を求める。</p>   |
| 事務局  | <p>次期総合戦略における施策の考え方、次期総合戦略（素案）内容等について、資料1から6までを用いて説明。</p>   |
| 武次会長 | <p>それでは最初に、基本目標1について質問、意見はあるか。</p>  |
| 山口委員 | <p>資料3の1ページの「結婚を希望する人の縁を結ぶ」ということについて、「地域・民間ができること」として、すでに地域・民間は、出会いの場をたくさん創っているのので、行政側としてイベント実施などをしていったと思うが、行政が出会いの場を創るなどは完全にやめて、地域・民</p>   |

間の支援というところに力を入れて、地域・民間が行う出会いの場の創出を促進できるような感じにすれば良いのではないか。具体的に言うと、今、若い人たちはマッチングアプリ「Pairs (ペアーズ)」とか「Omiai (お見合い)」などをよく使っているが、その手数料、利用料を富津市民なら無料にするとか、そうすればみんな自分でマッチングアプリを使うようになるのではないかと思う。行政として全くイベントなどを開催せず、地域・民間への開催支援として補助金などで支援していくのが良いのではないかと思う。

武次会長

実際にアプリを使用した出会いの場というのは、結構あるのか。

山口委員

今、若い人はアプリで出会う。昔は出会い系アプリなどがあったと思うが、今はマッチングアプリというもので、結構若い男女がそういったアプリを通じて出会い、付き合っただけで結婚するというケースがすごく増えている。だから、そこで手数料などを負担してあげれば、みんな勝手に出会ってくれる。本当にそのような出会いの場はすでにたくさんある。単純に絶対やらなくて良いと思うのは、行政として婚活イベントを主催すること。正直あまり格好良くない。そこに参加するのは真面目な人が多そうというイメージがお互いにあると思うから、それよりも民間の方がもっともっと行政っぽくない、いわゆるおしゃれなものをたくさん用意しているので、そこを支援してあげる方が良いのではないかと思う。とりあえず、若い人たちは、今、アプリで出会うということを伝えられたらと思う。

島野委員

個別の議論に入る前に、全体について、まず感想を述べさせていただきたいと思う。あくまで個人的な感想だが、まず、これまでの議論の中で、もう少し優先順位付けをシンプルにしたらどうかという話をさせていただいていたが、その点は以前より分かりやすくなっていると思う。

2点目は、これはよし悪しあるが、資料3の数値目標の数値に市民アンケート調査の結果が書かれているが、前回のアンケート結果からそれほど大きく変わっていない。だから、前回の総合戦略が良かったかどうかという、この数値だけ見て言うと、あまり評価できないということになる。今回の見直しを前回と同じ方向性で行うものだとすると、やはり同じようにうまくいかない可能性がある。もう少し見直すところを増やした方が良いのではないかと思う。ただ、正直にこの数値を報告していることは、非常に良いことだと思う。現状認識をみんなで共有すること自体はとても良いことなので、是非この数値を真摯に受け、どのように新しいことを考えるか、今までなぜこの数値が上がらなかったのかを考えるべきだと思う。

3点目は、資料1の最初に書いている2040年に人口3万4千人という数字だが、非常にチャレンジングな数字となっている。まずチャレンジングな数字を掲げたこと自体は、市として頑張りますという決意表明をしていると思っていて、人口ビジョンの他の数字も見たが、公的なところで予想しているのが2040年で約3万人という数字になっているから、

今からすると1万人この人口推計でこの20年間減るという予測なのだろうという中で、それを6千人減に抑えるという相当チャレンジングな目標設定だと私は理解している。であるならば、今まで通りのやり方ではなおさら無理で、是非もう少し色んな施策を取り入れていくべきではないかと正直思っているが、是非このチャレンジングな目標を達成するための議論にしたいなと思っている。

武次会長

今、全体的な話があったが、事務局から何かあるか。

事務局

人口3万4千人というチャレンジングな数字を掲げている、また数値目標についても正直に数値を明らかにしているということで、評価をいただいているものと考えている。チャレンジングな取組に対する施策については、次年度の予算で的を絞って取り上げていきたいと考えている。

島野委員

確認だが、資料1の「市民の希望出生率1.83」という数字について、資料5に合計特殊出生率が書かれているので、どちらかに統一するのか、そもそも希望出生率が今この時点でどのくらいの数字になっているのか教えてもらいたい。

事務局

現在設定している1.83という出生率については、人口ビジョンを作成した当時のアンケートや市民委員会等の意見をいただく中で定めたものである。現状、最新の市民の希望出生率の数字は出していない。これまでの人口ビジョンに定めている通り、2040年に1.83にする、段階的に引き上げて最終的に1.83に到達するような計画としている。

鈴木（裕）委員

現状を把握することが大切だと思っているが、「子育てしやすいと感じる世帯の割合」がここに出ているが、どのような項目で調査したのかを教えてもらいたい。そこが分からないと、何をもって子育てしやすいと感じるのかをつかめないと思う。例えば、子どもに対する教育とか、学力を重んじることもあるだろうし、天真らん漫に体をよく使って遊ぶことであるとか、富津市は環境が良いから引っ越してきたということもあるだろうし。

事務局

まず、アンケートの項目については、現在の総合戦略を作成したときのアンケート結果と比較する必要があるため、昨年度実施した市民アンケートの項目自体は前回と同様の項目としている。今回、資料3で数値目標として挙げている「子育てしやすいと感じる世帯の割合」については、アンケートの中で「あなたは、富津市は子育てしにくいところだと思いますか」という質問をしている。そこで「思う」、「思わない」、「どちらともいえない」という三択の中で回答してもらっている。結果的に、「思わない」が25.8%となっており、これをもって「子育てしやすいと感じる世帯の割合」を26%としている。少し補足すると、「思わない」については、前回のアンケート数値と同数値となっているが、表面上は

出てこない「思う」と回答した割合については、前回の 33.6%に対して今回は 23.5%となっていて、子育てしにくいと思っている回答割合は下がっているというのがひとつの特長として出ている。その下がった分が「どちらともいえない」に移っているというのがアンケートの分析結果である。したがって、今まで子育てしにくいと感じていた方が、子育てしやすいとまでは言えないけれども、少なくとも子育てしにくくはないと感じてもらっている状態になったのではないかとというのが、アンケートの分析結果である。

鈴木（裕）委員

もう少し具体的な選択肢の内容を教えてください。

事務局

アンケートの中で、「富津市が子育てしやすい地域になるためには、何が必要だとお考えですか」という質問に対して回答をいただいでいて、項目としては「働く場の確保による経済的な安定」、「安心して妊婦、子どもが受診できる病院、診療所」、「放課後でも安心して子どもが過ごすことのできる施設やサービス」、「結婚・妊娠・子育てに関する周囲の理解」、「子育て世帯に対する地域（地区）住民の支援」、「子育てに関する相談機関」があり、この中から選択をしていただいている。最も多かった回答が「働く場の確保による経済的な安定」で全体の 4 割弱を占めていて、次いで「安心して妊婦、子どもが受診できる病院、診療所」、「放課後でも安心して子どもが過ごすことのできる施設やサービス」となっている。このように、アンケート結果から市民の皆さんが必要と考えている項目について特徴が出ているので、意識して施策として進めていく必要があると考えている。

青木委員

出会う機会を増やすということについて、資料 5 の未婚率の比較を見ると、30 歳過ぎている人の未婚率が近隣市と比較すると高くなっている。30 歳過ぎて仕事も落ち着くと、結婚するのも面倒になっている人もいるだろうし、そのような中で何ができるのかを考えたときに、そのような人は出会いの場に自らなかなか行くこともないだろうし、アプリも 35 歳くらいになってやる人もなかなかいないのではないかなと思う。そうすると職場の恋愛などが最も多くなってくると思うので、やはり女性が働く場所というのが増えないと、どうにもならないのかなとすごく感じた。婚活アドバイザー的な活動をしている人もいるので、そのような人の存在が広く知られるようにして、丁寧に出会いの場を創れば、少しずつでも結婚して、子どもが生まれるというようになると思う。

子育てしやすい環境を整えるということについて、アンケート結果から子育てしにくいという割合が減っているということだったが、富津市は保育園に入りやすいという話を知人から聞くので、そういうこともあってか、子育てするなら富津市が良いという話も聞く。子どもが小学生になったときに、他市では行っている算数検定などを富津市では聞いたことがなく、成長するにつれて学力の差が出てしまうと他市に行きたくなくなるというような話も聞く。富津市でもそのようなものを取り入れていく予定はあるのか。

|         |  |
|---------|--|
| 教育センター  | 市として学力向上のために何ができるのかを日々検討している。他市と比較して1学級当たりの人数が少ないなどの強みもあるので、どのように指導、支援していけば学力向上につながるのかを考えている。  |
| 鈴木（文）委員 | 出会いの場とか婚活について、同年代の母親に聞くとアプリで手続きする仕組みのものがあるのは聞いているが、私たちにはよく分からない。自分の子どももアプリは使用していないので、そうするとどんどん結婚しなくなっていった親としては心配である。市役所がやると堅苦しいという考えもあるのかもしれないが、皆さんが気軽に集まれるような場を市役所がつくるのも良いと思います。  |
| 山口委員    | <p>行政は経営側であるべきで、実際に動くのは民間がやった方が良いというのが私の考えです。民間に任せられるものは任せて、市役所の職員は支援する側に回った方が良いのではないかと思う。というのも、職員が全部プレイヤーとしてやると忙しいし、大変だと思うので、もっと楽しんでいこうと。職員が減っても今の業務が回せるように効率的にやっていこうと。さすがにここまでやらなくてもよいのではないかというところ、ここは民間に任せられるというところについて述べようと思う。</p> <p>資料3の3ページの「ワークショップの開催」や、後で事業内容を教えてもらいたいが、可能であれば「(仮称) 地域交流支援センター事業」は、どんどん民間に任せていけば良いと思う。</p> <p>資料3の4ページの「子どもの学習支援事業」も、民間に任せていけば良いと思う。今だとオンラインで学習できるサービスもあるし、塾の費用を立て替えてあげるという形で、市の職員が学習支援を直接しなくても、学習支援は塾でしているものなので、塾の費用を負担するという形で支援して、職員の実働はしなくて良いのではないかと。</p> <p>追加した方が良くと思う施策としてベビーシッターがある。今はまだ保育園や幼稚園に余裕があるが、子どもが増えてきたら不足してくる。保育園をつくっても10人や20人しか入らないため、この間をどう補うかというベビーシッターしかないと思うので、ベビーシッターを増やしたり、「KIDSLINE (キッズライン)」などのベビーシッターとお母さんとのマッチングサービスもあるので、その利用料を負担するとか、それとは別に市がプレイヤーとなって市がベビーシッターを雇うという形で支援するなどがあると思う。</p> |
| 子育て支援課  | 交流支援センターは来年4月開設予定で、現在、岩坂にある天羽老人憩の家を改修工事していて、開設準備を進めている。子育て親子の交流の場の提供や相談事業などを実施する予定である。   |
| 山口委員    | センターは市の職員が運営するのか。  |
| 子育て支援課  | 今現在、富津地区及び大佐和地区では支援センターを私立保育園で実施しているが、南部地域には支援センターがないので、市で設置を予定している。   |

|         |  |
|---------|--|
| 森田委員    | <p>出会いの場を創るということであれば、農業をやれば良いと思っている。自分の仕事仲間は20数人いるが、未婚者は2人くらいしかなくて、既婚者も子どもが多い。色々な施策により子育てしにくいと思う人が減ってきたということだけど、自分もそう思っていて、第3子以降の保育料の無料化とか医療費の無料化とか、少しずつ良くなってきている。これ以上どうすれば良いのかについては、現在考えを持ち合わせていない。</p>   |
| 武次会長    | <p>基本的な施策の方向③「のびのび学ぶ教育環境を整える」について、5ページの「地域・民間ができること」及び「市民ができること」が空欄になっているので、何ができるのか意見をいただきたい。</p>  |
| 島野委員    | <p>以前、日経新聞で学校の先生はブラック労働になりがちなので、学校にボランティアの方とか補助支援要員の方を入れたらどうかという検討を他の自治体ではしていると目にした。富津市の学校の先生の実情は分からないが、そういったことを含めて検討するのも良いと思っている。自分の知り合いの先生は、部活で自身が未経験の種目を指導するのが辛いので、地元の人が教えてくれたら助かるなどと言っていて、そのような話はよく聞くので、そういったところを補助したらどうかと思っている。</p> <p>また、4ページの左側の現総合戦略の目標値について、全体的にアンケートの評価指標に偏りがちだが、例えば「子どもが確かな学力を身につけるための取組に対する保護者の肯定的な評価の割合」、これ自体は良いと思うが、県の平均と比較して富津市の子どもの学力テストの結果が上か下かの方が分かりやすい数字なのかなと思う。保護者が満足しているかという観点も良いと思うが、実際に成果が上がっているかという観点からの数字を是非取り入れていただければと思う。</p> |
| 武次会長    | <p>次に、基本目標2について質問、意見はあるか。</p>  |
| 小泉委員    | <p>個人の感覚だが、もともと富津市に住んでいる人のほとんどは、富津市のことが大好きだから暮らしにくいとは思っていないが、他から引っ越してきた人などは、感じ方が違うと思う。自分の子どももそうだが、富津市が好きなんだけど結局仕事を選ぶとなったときは、富津市を出ざるを得ないということになっているので、例えば今の高校3年生とか20歳くらいの人生の分岐点にいるような人たちに話を聴けば良いのかなと思う。</p>   |
| 鈴木（敏）委員 | <p>戻ってしまって申し訳ないが、出会いの場にしても市でイベントを開催したりしていると思うが、主として参加している方の年齢層を見ると子どもや高齢者で、若い方の参加が少ないのではないかと思う。今後、出会いの場等を含めた中で、参加する層として高校生くらいをターゲットにしていくと、その先に出会いがあったり、また市の行事で知り合うことで市に家を構えるようなことにつながるのではないかと思う。</p> <p>魅力を創っていく中で、富津市は南北に長く、5つ駅が連なっている</p>  |

が、メインの駅がどこなのか分かりにくいと感じている。ここが富津市のメインの駅だということを住民からも思ってもらえると、そのエリアを中心に発展していくと考えていて、そこに人が集まるという形をつくっていきけるのではないかと思う。他の都市と比較して「ここが」という場所に欠けていると思う。魅力を創っていく中で、核となるエリアをつくって、そこから街を盛り上げていく、そこが発展していく、人がそこに集まるというスタイルもあるのかなと思う。人が集まることによって企業等の働く場が増えていくと思う。市のメインエリアというのをつくっていくと良いと思う。

佐藤委員

富津市は環境が良いのでリタイアして移住してくる人も多いが、高齢になって車を手放した後の生活について話題になる。結局、子どもたちも東京に戻りたいとか、逆に富津市から離れていってしまう。総合戦略は、高齢者や障がい者が住みやすい地域にすることにも取り組んでいるから、この辺を解決してほしいなど。その中で高齢者が住みやすい環境になれば、子どもたちが環境良く育っていくのではないかと思う。

山口委員

民間がやるべきことは民間にやらせた方が良いのではないかということについて述べたいと思う。まず、施策1の「ふつつのいいこと発信事業」については、民間に任せれば良いのではないかと思う。具体的には、アンバサダーとか観光大使とか、民間で情報を発信している人に何かしらのお礼や助成金などを出すとあけると良いと思う。広報ふつつとかホームページとかそれほど更新頻度が高くないし、新しくオープンした飲食店とか、それを市より民間の方が先に宣伝している。そうであれば、その民間を支援していくという立ち位置でも良いのではないかと思う。市が富津市の魅力とか全ての情報を発信しようとしなくて、それができる民間とタッグを組む方法もあると思う。スポーツフェスタなどは、いずれは民間に任せる方向で考えた方が結果的には良いと思う。全体に対する意見として、地域力を高めるという点で、現状、すごく地域力が高いかという点で決してそこまで高くはないと思っている。富津市にいて快適に過ごさせているから満足しているだけであって、富津市が世界で一番住みやすい街かと言われれば、決してそうではない気がしている。少なくとも富津市が快適で良い街というのは、あくまで自分にとって良い街であって、世界中の人に富津市はすごく良い街だよと広めたいくなるほどの魅力がある街では正直ないと思っている。だから、地域力というのは、そういうところで高めていかないと、自分が住んでいて快適というだけでは人は増えないので、目標を高めていく必要があると感じた。地域力というのは「場」と「人」の2つがあって、「場」については限度があるが、「人」の部分というところの魅力を上げるのは、市民とか行政で頑張っていけばもっともっと高められると思うので、「人」の魅力を上げるような施策とか事業がもう少しあると良いなと思う。また、地域力を高めるということに対して、富津市の魅力を発信するだけで、新たな魅力をつくるような内容が無いと思った。今の魅力だけで人が来るのであれば、もう来ているはずなので、人が出てしまっているということは



満足していないということなので、そこをしっかりと認識して、新しく地域の魅力をつくる施策を増やすと良いのではないかと思います。

島野委員

資料6の転出者アンケートの数字がリアルなのかと思っている。「富津市に住んでいて良かった点」の中で注目したのは、「近所との交流」と「治安」で、この項目は他の地域では見られないような項目だと思う。これはすごく意外なポイントだった。だから、転出した人がなぜこの項目を選んでくれたのかということを探ると、街の魅力という意味ではヒントがあるのではないかと思います。もう1つ、地域力という意味で言うと、もう少しマクロな目を見たときに、富津市の立地、残念ながら東京への通勤圏という意味では少し遠いけど、ちょっと便利な場所に移住したいというところとしてはちょうど良いと思う。そういうところを踏まえて、富津市に来て何かをすることを促進するのが良いと思う。移住者というよりも関係人口、富津市に関係してくれる人の数を増やしていくこと。住むまでいかないけどよく来てくれるとか。そういう人をできるだけ増やす施策が必要と感じる。

森田委員

最近 YouTube でドローンを使って撮影した富津市の動画を見て、すごく綺麗で、自分も行ったことがない場所もあったりして、あらためて良いところだなと思ったんだけど、なぜかあまり再生されていない。すごくもったいないと思っている。こういうのも民間の人たちにどんどん広めていって紹介してもらおうようにした方が良い。また、色んな人に動画を作ってもらってそれを紹介してもらおうように広めていくと、まだまだ富津市の魅力が伝えられるのではないかと思います。

武次会長

全体通じて事務局から何かあるか。

事務局

意見のあった民間への委託については、積極的に推進して、総合戦略の中でもそのような考えをもって進めていきたいと考える。

武次会長

ここで休憩を挟み、基本目標3の議論に移る。

(休憩)

武次会長

会議を再開する。

子育て支援課

先ほど山口委員から話があったベビーシッターについてだが、現在市では、ファミリーサポートセンターで子育ての手助けをしてほしいとか、子育ての手助けをしたいという方がそれぞれ会員登録をされていて、そのマッチング事業を実施しています。

山口委員

もっと顔が見える、リテラシーが高い方が依頼しやすいだろうと思う。母親の不安解消というところから取り組まないと、結果的に事業として盛り上がらないと思うから、その辺から何かできると良いのではない

いかと思う。

武次会長

それでは、基本目標3について質問、意見はあるか。

山口委員

2点あって、1点目は、13ページの「有害鳥獣被害の軽減」についてだが、ここも民間に頼むということであれば、猟師の移住をサポートするとか、猟師の移住・定住を促進してあげれば良いのかなと思う。猪も多いし、結構ここは危機意識を高めてやった方が良いと思う。

2点目は、15ページの「移住しやすい環境を整える」のところで、東京まで1時間半で通えるというのは、アピールポイントとしては厳しいと思う。意外と近いというアピールはできるが、果たしてそこで勝てるのかと思う。木更津市の方が近いし。東京まで意外と近いこともアピールしつつ、施策の方向性として提携都市をつくるとか。例えば、木更津市と連携するなんていうのも良いのではないかなと思う。おそらく木更津市より富津市の方が子育てはしやすいと思うが、アクセスでは分が悪いので、良い点を補えるように連携してやっていったら良いのではと思った。また、施策として「外国人の誘致」を入れても良いと思っていて、正直言って日本人は取り合いにしかならないから、例えば海外のどこかの都市と提携して関係都市をつくっていくのも良いと思う。施策の方向性としては、情報発信より連携の方に意識を変えていった方が良いのではないかなと思う。

鈴木（裕）委員

暮らしやすいというところで、何をもちって暮らしやすいかということだと思うが、便利か便利じゃないかということを追いかけても難しいと思う。私は金谷に住んでいるが、便利さだけで競争したら分が悪い。その地域が誇れるものは何があるのか、そこを磨いて特化した方が良いと思う。例えば、農業もそうだし、金谷なら鋸山というものもあるし、外人も増えている。そういう各地域にある地域固有の長所、ブランドをうまく発信していければ良いと思う。私の知人にも田舎の暮らしを楽しんでいる人もいて、彼らは不便さを楽しんでいるくらいの気持ちでいて、そういう人はこの地域を好きになってくれるし、そのような人に集まってもらえれば良いと思う。だから、移住しやすい環境づくりということだが、まずはどこを核にして磨いていくかが大切だと思う。そうすることで富津市のイメージも多くの人に伝わると思うから、是非考えてもらいたい。

島野委員

「不便さを楽しむ」というのが重要なキーワードだと思う。便利のところはいくらでもあるから、ある意味、極端に不便でなければ良いと思う。思い付きに近いが、最近はやりのキーワードに「SDGs」という言葉がある。SDGsは、経済的な合理性に反するとか、利便性を損ないながらもサステナブルな生活を送る方向にかじを切る活動とされていて、そうだとすると、暮らしやすく移住しやすい環境というのは、ある意味「SDGsを富津市は体現します」みたいなことを言ってみるというのは、ひとつの差別化のポイントになり得ると思う。先ほど外国人の話があっ

たが、外国人の移住については、なかなか微妙な問題だと思っていて、利害得失をよく見極めた上で考えた方が良いと思う。

鈴木（敏）委員

休日農家の支援についてだが、農業というのは大きな機械が必要であって、その機械の貸出しとかできる環境にあるのか。借りやすい環境にあると、休日や老後にこちらで農業をするというライフスタイルを楽しむ人が移住してくるような、そういう魅力的なことができる場所かなと思う。

農林水産課

現在、農業の機械を貸し出すという制度は無いが、市民農園を開設していて、農地を市民に提供するという事業は実施しているので、是非利用してもらいたい。

山口委員

施策の方向について、目標が外から人を呼ぶことであると考え、市の認知度を上げるということが、この基本目標の中で施策の方向として入っていると思っていた。何で入っていないんだろうと思ったら、基本目標2「自分のくらす地域を好きになる」の中で「地域の魅力を内外に伝える」というのが入っていたのだが、単純に基本目標3にも入って良いのではと思った。基本目標2にある「ふっつのいいこと発信事業」は、どちらかと言うと地域内でのブランドを高めるとか、そういう部分での発信を担い、基本目標3では外部の人に市の魅力を発信する役割を担う、要は対内的な発信と対外的な発信をしっかりと分けて、2つの軸でやった方が良いのではと思う。そうすると基本目標3の方は秘書広報課が担当するよりも民間にお願いするのが良いと思う。民間の方が、ITリテラシーが高くて色んな人から要望があったときに迅速に対応できるので。だから、ハード部分の運用は民間に任せて、ソフトの部分、市の魅力は何なのかを考えて、こういう魅力にしていこうという方針を決めるなどのソフト部分は市がやれば良いと思う。ハードとソフトを二分することで、より柔軟かつ市の発信力向上につながると思う。担当する課の組替えで広報活動がかなり変わる気がするから、組織改編などを検討する余地があるのではないかと思った。

企画課

企画課業務として移住・定住の促進に取り組んでいるが、今年度に空家バンクを立ち上げたばかりで、まだまだ第1歩を踏み出したレベルである。先ほど委員も言っていたが、移住・定住を促進するということは、当然市の魅力を発信していかなければいけない。例えば、住む周りの公共施設の位置だとか、買い物ができる場所の有無であるとか、観光拠点の有無であるとか、こういった情報をパッケージで提供することによって、定住とまではいなくても移住のヒントになったりだとか、またそこまでたどりつかなくても、遊びに来てもらえるという可能性も高まるであろうことからすると、施策を進めていく上で関係する部署と連携し情報発信をしていきたいと考えている。

また、情報提供として、本年10月に富津浅間山バスストップが開設された。それを契機に富津市のアピールをするため、高速バスに富津市の

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>おいしいものや名所などをラッピングして、現在館山から東京までを毎日2往復している。是非見て欲しいし、乗ってSNS等で拡散してもらいたいと思う。</p>  |
| 佐藤委員    | <p>今回の台風で所有者不明の空き家に係る被災が結構多かった。周りの人は誰に相談していいかわからないという状況があったのだが、空き家対策への取り組みについては、今後どのようにしていくのかなど。政策、例えば行方不明になったら解体するとか、対策については早く決めてもらわないと空き家だけのせいにはできないのではないかなと思う。その辺はどう考えているのか。</p>   |
| 都市政策課   | <p>今回の台風により相談は増えている状況である。今後の対策としては、条例と計画について順次策定を検討していく予定である。相談については、都市政策課で受け付けている。</p>   |
| 佐藤委員    | <p>空き家対策については、他市は出来ているが富津市は遅れているので、是非早くお願いしたい。</p>  |
| 小泉委員    | <p>使用しなくなったのり網をいのしし対策に使いたいという話を他市からよくもらうが、富津市でも使うのであれば是非協力したいが、いかがか。</p>  |
| 農林水産課   | <p>以前からのり網を提供してもらっていて、欲しい人がいれば紹介しているところだが、今はのり網より鉄柵を使っている。欲しい人がいれば紹介させてもらう。</p>   |
| 島野委員    | <p>私は畑をやっているが、それは知らなかった。是非広報してもらいたい。</p>  |
| 武次会長    | <p>それは有償か、それとも無償か。</p>  |
| 小泉委員    | <p>もう使わなくなったものであれば、無償である。</p>   |
| 鈴木（文）委員 | <p>バスストップができて千葉にも東京にも新宿にも行かれるということで、とても便利になっていると思うが、車でバスストップまで行ける人は良いのだが、そうではない人、路線バスや電車を利用してバスストップまで来る人にとっては不便である。路線バスや電車の本数を増やすというよりは、何か他の工夫、例えば路線バスの時間と電車の時間のつなぎをスムーズにするなど出来たら、利用が促進できると思う。また、バスストップ周辺に住居ができれば、東京に通う人も便利だと思う。</p> <p>有害鳥獣について、自宅の庭や目の前の生活圏道路にも出没して怖い。すぐに対策を取ってもらいたい。</p> |
| 企画課     | <p>富津浅間山バスストップからの二次交通について、路線バスという考</p>  |

|         |   |
|---------|---|
|         | えもあると思うが、バスストップの開設に当たり、路線バスについてバス事業者と協議したところ、新規路線については利用者数や採算性などが見込めないと難しいとのことだった。PRも兼ねるが、浅間山バスストップに市営駐車場があり、そこにタイムズのカーシェアリングで、2台だけが利用できる状況にある。事前に会員になる必要があるが、利用してもらいたいと思う。 |
| 鈴木（文）委員 | カーシェアリングは、年会費とは別に利用する際の料金がかかるんですよね。   |
| 企画課     | カーシェアリングの利用は、タイムズの会員になることが前提となっているため、年会費がかかるということになるが、利用があれば年会費相当分の時間を利用することができるなどのサービスもあるので、会員になって利用してもらいたい。   |
| 鈴木（文）委員 | 会員は個人ですよ。自分の家はお寺だけど、お寺で会員になってその都度利用できるということではないですよ。   |
| 企画課     | 会員には個人と法人がある。   |
| 鈴木（文）委員 | 例えば、法人で会員になって、利用するときに予約をすれば良いのか。また、時間制か。  |
| 企画課     | 利用については、15分単位から利用できるようになっていて、1日パックなどもあり、用途により料金も変わってくる。   |
| 森田委員    | 空き家について、今までは空き家に付属する農地は一緒に買えなかったが、空家バンクに登録された空き家については、農地が付いている場合、空き家と一緒に買えるようになったので、空家バンクをもっと充実させて、その周知をしていけば、その分移住者が増えるきっかけになるのではないかと思う。                                   |
| 企画課     | 空家バンクを立ち上げているところだが、現状、登録物件数が1件となっている。空家バンクの利活用を推進する上で一番重要なのは、登録物件数を増やすことと考えていることから、次年度からの施策に向けて現在、課で空家バンクに係る利活用の推進策について検討している。  |
| 武次会長    | 次に、基本目標4について質問、意見はあるか。  |
| 島野委員    | まず、仕事を創るのということは、すごく大事なことだと思っていて、施策の方向として創業支援や企業誘致という形で掲げていること自体は良いことであると思っているが、いきなり企業誘致とか創業支援というのはハードルが高いかなと考えていて、もう少し前段で低いハードルで企業が来れるような施策があると良いと思った。先ほど富津市は通勤に            |

は少し遠いけどちょうど良いところにあるよねという話もあったと思うから、そういう意味で言うと、商品のテストであるとか、マーケティングとして試させる場として、富津市自体を活用することができるのではないかと思っている。以前自分の活動で、花火大会でリコー（RICOH）のカメラをたくさん借りてマーケティングに協力したこともある。市のイベントや場所をうまく企業に貸すことによって、仕事を市内で創ってもらおうということをしてもらうと良いかなと思う。また、働き方改革で、最近リモート勤務などがあり、会社に行かなくて快適な所で働くという形態もある。そういった場所を市で設けることができれば良いと思う。遊びに来たついでに働いてみるという場があれば良いと思う。施設に費用をかけなくても良いと思うから、例えば公民館の1室にプリンターと無線LANを置くだけでも良いと思う。

佐藤委員

企業誘致するに当たって、紹介できる土地を提供していただければありがたい。市に相談に来ている可能性もあると思うが、企業誘致に当たって紹介できる土地を市のホームページに載せてくれば、割と企業に来てもらえる可能性はあるのかなと思う。また、空家バンクとの連携も関係してくるが、土地を探している人は結構いるので、その辺を充実させていけば新たなPRになると思う。

鈴木（裕）委員

お試的な移住をやっている自治体もあるから、市もそういったものを用意して、一度富津市に住んでもらえるよう、市として積極的に受け入れている姿勢をPRすれば良いと思う。働き方についても、最近、週3日で良いという会社もあるというのを聞いていて、実際に私の知り合いからも、房総に住んでいて週3日東京の会社に行けば良いという人がいるとの話を聞いている。そういった人がもしかしたらこれから増えてくるかもしれないので、先進的にそういった人たちを受け入れられる場所なんだということをPRしていくというのは非常に良いことだと思うから、まずはお試しということで取り組んでみてはと思う。

島野委員

お試し移住については、私の友人で三浦半島でやっている人もいるのだが、住むところとセットでやっているパターンもある。1箇所だけ移住してみましよう。リモート勤務で良い人は週2、3日の勤務で、週の半分は東京まで会社に行くなんてことをやっている人もいるので、うまく空き家の活用も含めて、お試し移住などをやってみれば良いかなと思う。

森田委員に伺ったら良いと思うが、新規就農者のハードルって、先ほどの農地付き空き家以外の話はあるか。

森田委員

富津市は制限を下げて農振地域以外であれば1反からの購入を可能としたが、農業を主として暮らしていくんだとすると、やはり5反以上買わないと無理だと思う。これまでの5反という要件は、そのくらいないと暮らしていけないでしょうということだったが、今は5反なくてもハウスとか建ててやれば何とか暮らしていけるのではないかということ

で、富津市は1反まで下げている。今年2名が新規就農者として富津市で農業をするようになった。現在も君津市より富津市の方が農業しやすいとのことで農地を探してる人もいるが、なかなか見つからない状況で、何とかサポートして就農できるようにしたいと思っている。

鈴木（敏）委員

企業にも地元採用をしたいという企業が新富工場協議会内でも数社ある。実際のところ、求人を出してもなかなか来てもらえない。就職説明会にも参加して高校生に対して求人を出したりしているんだけど、学校側にも生徒側にも新富にある企業の情報があまり知られていないのかなと感じている。教育センターに協力してもらって学校の先生にも新富工場協議会の企業見学などもしてもらって、どんな企業でどんな仕事をしているのかなどを見てもらったりしている。今後も自分たちも協力していきたいと思っているので、是非とも地元の人を地元の企業へという形で協力いただきたい。

山口委員

「働く場所の創出への満足度」の定義についてだが、働く場の創出というのは2つあると思っている、仕事場なのか仕事自体なのか。これによって優先順位が変わってくると思う。リモートワークができる場所があれば良いということなのか、それとも仕事を生み出してくれる場所ということなのか。つまり、欲しいのは仕事場なのか仕事なのかということ。例えばリモートワークは仕事場をつくることで、そうすればそこで仕事をする人がいるよと。でも、その仕事というのは都内の仕事であって、その税金は都内に入ってしまうので、正直リモートワークで富津市で仕事をしてもらっても、確かに来てもらって富津市でご飯とか食べてもらって、市の盛り上がりにも貢献すると言える部分もあるが、少し物足りない気がする。だから、仕事を創出するという方向なのかなと。富津市で仕事を創出、それが結果的に働き手を増やすことなどにつながるのかなと。そうであれば、仕事場をつくるということではないので。仕事場なのか仕事自体なのか、この定義によっては施策の方向性に影響が出るため、どちらなのか教えてもらいたい。

企画課

行政の立場で物理的な意味で仕事の間をつくるというのはハードルが高いと考えている。今回素案で「働く“場”をつくる」という文言で基本的な施策の方向を掲げているが、「雇用の創出」という現総合戦略の施策の方向性から変更した一番の要因は、市民アンケートの中で「これからの富津市に重要だと思うものを選んでください」という項目があり、その中で最も回答数が多かったのが全体の43.1%を占めた「働く場所の創出」であったということである。現在、雇用形態については、企業側からも見ても働き手側からも見ても様々な形態があって、定型に縛られるような状況ではないということから、空間的な場所ということも含んではいるが、主たるところは仕事自体に重きを置いているのが趣旨である。

武次会長

基本目標4については、終了する。

|         |   |
|---------|---|
|         | 基本目標 1 から 4 までを通じて質問、意見はあるか。  |
| 島野委員    | 全体的に良くなっていると感じているが、もう少しデジタル的な施策が入ると良いなと思う。今風な施策を入れられないかなというのが気になっている。先取りしていくようなことも考えないと、2040年の人口3万4千人は達成できないのではと思う。是非考えてもらいたい。  |
| 鈴木（裕）委員 | PDCAの流れが分かりにくいと感じる。このように考えて、計画して、実行して、結果こうなりました、したがって次はこうしましょうというような流れが分かりやすくなると、この会議がより生きてくるのではないかと思う。   |
| 武次会長    | 以上で議題（1）を終了する。<br>続いて、議題（2）について、事務局から説明を求める。  |
| 事務局     | 総合戦略実行計画の平成30年度事業実績については、同実行計画に掲載している事業が多岐にわたるため、主要な事業に係る「事業シート」を掲載したものである。シート内の事業概要、事業実績、事業成果、事業の自己評価等について、ご意見等をお願いしたい。なお、昨年度、委員の皆様方から「事業が全て一般財源で行われているような資料のつくりになっているので、国県補助金等の財源内訳が分かると良い。」とのご意見をいただいたことから、今回、事業シート内の中段に国庫支出金や地方債、一般財源などの財源欄を設けている。<br>以上で説明を終了する。   |
| 武次会長    | それでは、基本目標 1 から 4 までを一括で議論する。質問、意見はあるか。  |
| 島野委員    | 25 ページの地域おこし協力隊について、どのような活躍をしているのか紹介してほしい。  |
| 企画課     | 25 ページの「事業の自己評価」欄にも記載しているが、概略としては、オール富津情報交流センター（AFICC）が平成28年度に国の地方創生加速化交付金を活用して立ち上げた「富津市観光・しごと・移住推進プロジェクト」に従事して、AFICC とともにこのプロジェクトを推進するというものである。昨年度の具体的な活動は「事業概要」欄にも記載しているが、北部ビジネスビューローの運営業務、具体的にはビューロー来訪者への対応や、ビューロー内の施設や備品の管理をしている。またメインの業務として、AFICC が市内の地域情報を発信していく総合プラットフォームというシステムがあったが、このシステムの大幅な改善を図り、新たなサイトの作成をした。この他にも市内各種イベント、企業合同就職説明会などへ出席し、関係機関とのつながりを持っていく中で、仕事と移住・定住を結びつけるということを目的に活動している。 |



|         |  |
|---------|--|
| 島野委員    | <p>ご活躍のようで良かった。気になっているのは、自治体によっては地域おこし協力隊が新しい事業を起こして、それで生活の糧を得てもらって、その人自身が定住するというを目的としていると思うし、そのような制度だと思っているが、富津市の地域おこし協力隊については定住してもらえそうか。</p>   |
| 企画課     | <p>本人ともよく話をするが、実際に富津市に住んで非常に住み心地が良いと言ってくれている。また、原則として地域おこし協力隊の制度、国が設計している制度上は3年、同一人物の地域おこし協力隊としての設置は3年というルールがある中で、任期満了後も是非富津市に残って仕事を続けたいと言っている。したがって、本人が富津市に定住する意思はあるのかというところについては、現段階ではあると認識している。</p>   |
| 島野委員    | <p>8ページの民生委員の活用について、民生委員には自分の親も世話になっていて非常に助かっているというのもあるけれども、もう少し民生委員の仕事を軽減化するような施策があれば良いと思った。民生委員はかなりの業務を抱えているので、その改善が図れればと思う。</p>   |
| 青木委員    | <p>17ページのふれあい公園について、今回陸上競技場を改修しているが、テニスコートとか野球場には照明設備があるが、陸上競技場にはない。照明設備を整える予定はあるのか。夜に道路でランニングをしている人も結構いるが、暗くて危ないので、陸上競技場に照明が付けばそちらに集まるかなと思って。スポーツのまちとして富津市には大学なども走るために来たりするから、設置予定はあるのかを聞きたい。</p>   |
| 都市政策課   | <p>現在、照明設備を整える予定は無いが、検討する。</p>   |
| 島野委員    | <p>全体の目標感として、子育てを一番上に掲げるということだったので、子育てとか教育のところの施策を厚くしてもらえると良いなと思っている。是非この具体的な実行計画についても反映してもらいたい。例えば、次期総合戦略を発表するときに、この実行計画としてこういうところを強化していますというようなことを併せて発表できると良いと思うので、是非お願いしたい。</p>   |
| 鈴木（文）委員 | <p>11ページの「自主防災組織促進事業」について、自分の地区でも消防職員を招いて、避難するときはここが良いとか、必ずしも決められた場所が安全とは限らないから地域で話し合うようになどの話を伺ったりしているが、今回の台風では本当にどこにどうやって避難したら良いかが分からない状態であったことから、今後また同じようなことが起きたらと思うと心配である。また、避難場所について、最初に開設されたコミュニティセンターはガラスが割れて、次に開設された保育所は狭くて入り切らず、途中で竹岡小学校が避難所として開設されたが体育館の屋根が壊れ、ガラスも割れて、竹岡は避難所難民になるような状態なのだが、竹岡小学校は壊れた箇所を直して合併後も避難所として残せるのか。ど</p> |

こが危険でどこに注意すれば良いか、地元も真剣に話し合う場を設けなくてはならないと考えているが、方法が分からないので教えてほしい。

防災安全課

今回、台風 15 号で竹岡コミュニティセンターが被害を受けたことから、台風 19 号では保育所を避難所として開設し、避難者が多くなったのでやむを得ず小学校の体育館を避難所として追加した。暴風や強風だと体育館は音がひどかったり、安心して避難できないということも想定されたので、保育所を先に開設したところだったが、想定以上の避難者がいたことから小学校を追加した。このようなことから、合併後も避難所として小学校は必要であると感じている。避難に当たっては、台風の対策など防災全般について要望に応じて出前講座を行っている。また、地域に密着した避難訓練なども行っているため、地域でテーマを検討し、遠慮なく要望してほしい。

鈴木（文）委員

行政としてもめったに無い災害なので対応に窮したと思うが、その中で賞味期限切れの水が配布されたという話があった。水については取り替えて、古いものは残さないなどの方法は取らないのか。

防災安全課

水については、混乱の中で確認が不足し、賞味期限が切れたものを配布してしまい迷惑をかけた。期限切れの水をなぜ残していたのかということについては、今回停電に伴い断水も発生し、また大規模な地震などの発生時にはもっと断水も発生するであろうという中で、賞味期限が切れていると分かっている水は飲料用としては配布しないが、断水時には生活用の水も必要になることから、期限切れの水だからと単に捨てるということができず、生活用水には活用できるというところから確保していた。しかしながら、今回は現場とその辺の連携がうまく取れずに賞味期限の確認を怠ってしまい、配布に至ってしまった。

鈴木（文）委員

そもそも水は、賞味期限が切れたら取り替える仕組みになっているのか。例えば、賞味期限が切れそうになったら、市民へ配布するなどはしていないのか。

防災安全課

取り替える仕組みはある。イベントなどで配布したりするが、それで期限切れが迫っている水が全て配布できるかというとそうではない。以前は期限切れが迫っている水を 1 本 1 本捨てたこともあるが、飲料には適さないとはいえ、単に捨てるのも忍びないし、皆さんの税金で購入しているものでもあることから有効活用したいというところがあって、今回期限切れの水を確保していた。

鈴木（文）委員

なるべく賞味期限が切れる前に有効活用するのが良いと思う。会議で使用するとか。賞味期限が切れたものを誤って配布しないように連携をしっかりとしてもらいたい。市民も考えなければいけないが、行政もよろしくお願ひしたい。

|         |   |
|---------|---|
| 防災安全課   | 今後気を付けていく。引き続き協力をお願いしたい。  |
| 鈴木（裕）委員 | 32 ページの「農作物被害対策事業」の中で「担い手育成のための新たな支援が必要である」とあるが、他の自治体では地域おこし協力隊を活用しているところもあるみたいだが、そのような人を招いて活用する予定はあるか。また、別に良い方法や新たな施策があれば教えてもらいたい。   |
| 農林水産課   | 32 ページの事業については、担い手が少なくなってきたことから、免許を取る人への補助ということで新たに免許を取得する人について支援している事業である。実情として、有害鳥獣に携わっている人たちの高齢化が進んでいて、捕獲した後で埋設するのが難しいと皆さん言うことから、企業で食肉加工を目的に処理までしてくれる事業があるので、その方向で企業と話をしている。また、地域おこし協力隊についても、連携できるようなら検討していきたいと思う。                   |
| 武次会長    | 以上で議題（2）を終了する。<br>続いて、議題（3）その他について、事務局から説明を求める。   |
| 事務局     | 特になし。   |
| 武次会長    | 委員から何かあるか。  |
| 島野委員    | 毎回この会議で色々と発言しているが、私自身はあれもこれもやってほしいというつもりで発言していない。どちらかと言うと、人口減少の中でどのように富津市を良くしていくかということについて知恵出しする場であると思っていて、私が発言したことを要望と思ってやってほしいということではないので、その辺は是非誤解のないようお願いしたい。みんなで知恵を出して、その中で公助については職員も頑張っていると思うので、共助の部分についてこの会議や計画の中で議論していきたいと思っている。 |
| 武次会長    | それでは、（3）その他について終了する。<br>本日の会議内容については、会議録の確定をもって取りまとめさせていただきます。<br>それでは、以上をもって全ての議題を終了する。<br>進行を事務局に返す。  |
| 事務局     | 5 閉会<br>小泉副市長あいさつ<br><br>(終了時刻 午後 4 時 30 分)   |

以上